

「米百俵プレイス ミライエ長岡」まちなか図書館インタビューワーク 開催報告

「米百俵プレイス ミライエ長岡」に導入するまちなか図書館は、市民に気軽に繰り返し利用され、愛される図書館を目指し、持続可能な運営や居心地の良い場所づくりを進めています。

市民が使いたい、訪れたいと思うサービスを提供するために、世代別のインタビューによるニーズ調査を実施しました。また、今後も継続して実施し、開館後もニーズの変化に対応できる仕組みづくりを行います。

- (1) 日 時 令和3年12月12日(日曜日)
- (2) 会 場 まちなかキャンパス長岡4階創作交流室
(長岡市大手通2-6)
- (3) 時間・参加者 午後1時～1時45分 中学生 10人
午後2時～2時45分 高校生 3人(欠席2人)
午後3時～3時45分 4大学1高専の学生 5人
午後4時～4時45分 ビジネスパーソン・起業家 6人
- (4) ファシリテーター 幅 允孝氏 ブックディレクター・有限会社BACH代表

<プロフィール>

人と本の距離を縮めるため、公共図書館や学校、病院、オフィスなど様々な場所でライブラリーの制作をしている。最近の仕事として、「早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)」での分類・選書・配架。安藤忠雄氏の建築による「こども本の森 中之島」ではクリエイティブ・ディレクションを担当した。 ■Instagram: @yoshitaka_haba

※ TRC&BACH meet Nagaoka(株式会社図書館流通センター、有限会社BACHの共同体)は、まちなか図書館機能開設準備支援業務委託を受託しています。

(5) 内 容

インタビューでは、「普段本を読むか(読まないか)」「どんな本を読むか」「どんな風に本を探したり出会ったりしているか」「書店と図書館の使い方」、「新しい図書館に求めること」「どのような図書館なら行ってみたいか」など、幅広く意見を聞きました。



<主な意見>

参加グループ	意見
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学活の時間に読書をしており、普段から本と慣れ親しんでいる ・書店の店頭や身近な人のおすすめ、SNS等で本と出会うことが多い ・書店では表紙で面白そうだと手に取り、少し読んで面白そうであれば購入する ・書店は新しいものがあり、図書館は古いものがあるという印象 ・色々な種類やジャンルの本を置いてほしい。 ・ジャンルがバラバラに置いてあるといい（自分が普段手に取らない本に気づくため） ・新しい図書館は、リラックスできる空間や友人と一緒に過ごせる空間などであると良い
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館に、自習室機能や学習関連本等を求めている ・自分が普段購入しないようなジャンルの本の所蔵してほしい ・本を手に取りたくなるのは、タイトルのインパクトや表紙がきっかけになることがある ・起業関連に関する最新情報、また、古い情報についても要望がある ・地域資料について、中心部だけでなく、合併後に長岡市となった地域の資料に関しても収集・所蔵を希望している
4大学1高専の学生	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な本は、学校の図書館で借りている ・大学・高専で学んでいることに関する本にはよく触れているが、娯楽や趣味の読書をする時間がとれない様子 ・「ひとりで集中するための場所」を求めている ・移動中に本を読むので、電子書籍は使っていきたい ・車社会で時間もかかるため、わざわざ図書館に行くには理由が必要 ・「図書館」に対して、閉鎖的、古い、敷居が高くて苦手なイメージがある。「図書館」というネーミングにも検討の余地があるのではないか
ビジネスパーソン ・起業家	<ul style="list-style-type: none"> ・本をよく読む人、読んだり読まなかったりする人、色々なジャンルを読む人など、各々本との付き合い方が確立している様子 ・それぞれの仕事分野に関連する本の所蔵ニーズがある ・個人では購入しないような判型の大きな本、写真集やビジュアルブック、高額本等の所蔵が求められている ・本を並べた人の意図が伝わる図書館に行きたい ・図書館は敷居が高いイメージがある ・日常の延長線上にあるような、もっと気軽に訪れることのできる場所であると良い